

## JISA・日科技連共催セミナー「PMS と ISMS の効率的な運用と同日審査」開催

平成26年2月20日、日科技連千駄ヶ谷本部で標記セミナーが開催され、100名（JISAのPマーク付与事業者から60名、日科技連のISMS登録事業者から40名）が参加した。

開会挨拶のなかでJISAの田原理事は、PMSとISMSの同日審査の背景について次のように述べた。

「いまや公共機関の入札や大手企業からの受託などに応じるために、事業者側で複数のマネジメントシステムの認証を取得している事例は多く、事業者側にとっては、審査に係る費用面ばかりではなく、各マネジメントシステムの運用面における負担は大きい。JISAと日科技連による同日審査は、PMSとISMSが同じセキュリティ関連のマネジメントシステムでありながら、統合審査が叶わない状況のなかで、事業者側のニーズに応える一つの策としてJIPDECの了解を得て実施している。受審対象は、PMSとISMSを統合運用するJISAのPマーク付与事業者かつ日科技連のISMS登録事業者であり、PMSとISMS両者の資格を持った審査員が、両審査を同日に行うことで、事業者側の経営トップや推進事務局及び関係部門の審査諸準備に費やす時間を削減する仕組みである」。

開会の挨拶に続き、企業事例として株式会社SCCからセキュリティ教育部の内桶（うちおけ）マネージャが登壇した。内桶氏は、はじめに、自社で行っているPMSとISMSの統合運用に触れ、一つのマネジメントシステムのなかで、「情報セキュリティ」と「個人情報保護」の二つの目的が達成でき、しかも現場サイドの人的リソースの削減ならびに運用の重複削減に繋がるなど、主として統合運用の長所について紹介した。また、同日審査については、審査への準備ならびに対応が一回で済み、しかも全社的に同時にPMSとISMSについての意識ならびに情報共有ができることなど、その長所を語る一方で、部門責任者のスケジュール調整に難航したことなど、その課題についても率直に語っていた。

株式会社SCCの事例発表の後、日科技連ISO審査登録センターの宍倉（ししくら）普及支援課長は、JISAのPマーク付与事業者向けに、同日審査を受審するためのISMS審査登録機関の移行手続等について説明し、質疑に応じた。

（薦田）